

令和5年度

地方独立行政法人鳥取県産業技術センター

業務実績評価書

令和6年9月

鳥取県

I 全体評価

全体評価に当たっては、項目別評価を踏まえつつ、法人の中期計画の進行状況全体について、次の5段階で評価する。また評価の視点について記述するものとする。

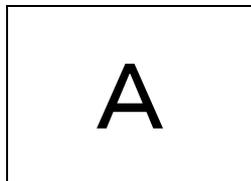
- S 計画を大幅に上回って業務が進捗しており、かつ特筆すべき業績を挙げている
- A 計画を上回って業務が進捗している
- B 計画どおりに業務が進捗している
- C 計画に対して業務の進捗がやや遅れている
- D 計画に対して業務の進捗が大幅に遅れている

全 体 評 価

(令和5年度業務実績評価)

総合評価

5段階評価



《評価基準》

- S 計画を大幅に上回って業務が進捗しており、かつ特筆すべき業績を挙げている
- A 計画を上回って業務が進捗している
- B 計画どおりに業務が進捗している
- C 計画に対して業務の進捗がやや遅れている
- D 計画に対して業務の進捗が大幅に遅れている

評価理由

1. 総評

第5期中期目標期間の初年度である令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し県内企業の新製品開発が活発化する中、地方独立行政法人鳥取県産業技術センター（以下「センター」という。）では、重点プロジェクトに掲げた「DX推進による生産性の向上」と「フードテックを活用したフードロスの削減と食品の高付加価値化」に関連する県内企業を積極的に訪問し、事業や支援制度の説明や提案を行うとともに、センターでは初となる知的財産の海外企業への権利譲渡など、県民に対して提供するサービスの質の向上に精力的に取り組んだほか、業務運営の改善及び効率化、並びに財務内容の改善を進めた。

特に、センター活動の基本である企業訪問及び技術相談の件数は、前年度比で大幅に増加するとともに、センター利用企業の満足度も非常に高く、継続的に良質なサービスを提供できていることを評価する。こうした企業訪問や技術相談を通じて県内企業の技術課題等を的確に把握することで、新たな共同研究や、オーダーメイド型の技術者育成に効果的につながっており、県内企業の技術レベル向上に貢献している。

また、センター設立100周年記念事業による活動や成果の発信、センターでは初めてとなる食に関する大型専門展示会への出展など、県内外への積極的な情報発信に取り組んだことは、センターの活用促進に寄与するとともに、職員の人材育成や意欲向上にも効果を上げており評価できる。

以上、企業の課題解決に向けた技術支援や研究開発、人材育成など、センター活動の指針としたすべての項目において第5期中期目標達成に向けた取組が計画を上回って進捗していると認められることから、「A」評価とする。

2. 個別評価

(1) 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し県内企業の新製品開発が活発化する中、「DX推進による生産性の向上」と「フードテックを活用したフードロスの削減と食品の高付加価値化」を重点プロジェクトに掲げ、関連する県内企業の訪問を積極的に行った。その結果、企業訪問及び技術相談の件数は前年度や目標を大幅に上回る（企業訪問：R4年度832件→R5年度947件/KPI：目標710件→実績947件、技術相談：R4年度5,797件→R5年度6,603件）とともに、センター利用企業の満足度も99.8%と非常に高くなっていることは大いに評価できる。今後も、県内企業のホームドクターとしてセンター活動の裾野拡大に期待したい。

企業訪問や技術相談を通じて得た県内企業の技術課題等を基に、令和5年度に新たに開始した共同研究（KPI：目標9件→実績10件）や県内産業の状況に対応したセンター独自のテーマによる研究など、あわせて34件の研究を通じて企業現場の技術課題の解決に取り組み、新たな技術や製品の創出につなげ

ていることは高く評価できる。また、知的財産権の活用においては、今までにない新たな取組として、権利譲渡や契約面での工夫を行うことで、初めて海外での特許活用を実現するなど戦略的に取り組み、好事例として国からも注目されるなど、優れた実績を上げており、非常に高く評価できる。今後は研究成果の一層迅速な事業化と技術移転のスピード向上が期待される。

オーダーメイド型の技術者育成では、積極的に企業訪問や技術相談で事業紹介を行った結果、育成件数は目標を上回り（K P I：目標 25 件→実績 30 件）、習得した技術により企業現場の課題解決が具体的に進められるなどの効果が見られ、県内企業からの評価も高く、企業の人材育成や課題解決に大きく貢献している。

また、センター設立 100 周年記念事業による活動や成果の P R をはじめ、各種広報媒体や企業訪問、学会や論文等の外部発表による、積極的な情報発信への努力や工夫の成果が現れていることが高く評価できる。S N S を活用した情報発信も進んできているが、発信の頻度や方法など、更なる工夫も必要であり、一層の強化を期待したい。

(2) 業務運営の改善及び効率化に関する事項

重点プロジェクトの推進に当たり、「D X 推進による生産性の向上」において、プロジェクトマネージャー（生産性向上支援担当）を配置したほか、組織改編により機械素材研究所にはロボット分野・システム開発分野を担当するグループを設置するとともに、食品開発研究所にはフードテック技術対応を加速させるためのグループを改組設置するなど、機動性の高い業務運営体制を新たに整備し企業対応を行ったことは高く評価できる。

また、職員の意欲向上と能力開発においては、学会発表や論文投稿等の外部発表件数が設定した目標を大幅に上回っており高く評価できる（K P I：目標 27 件→実績 43 件）。このほか、センターでは初めてとなる食に関する大型専門展示会への出展は、県内外への技術力発信に加え、幅広い方々からのフィードバックを得る機会となり、職員の人材育成にも効果を上げている。持続的な人材確保や人材育成に向けて、職員のメンタルヘルスやモチベーションの維持・向上、キャリア形成支援には一層取り組んでもらいたい。

(3) 財務内容の改善に関する事項

老朽化した試験研究機器について、外部資金獲得や効率的な業務運営によって確保した余剰金を有効活用しながら、計画的に更新や高度化を進めている。また、エネルギー価格をはじめとする物価高騰に対応して、節電等による大幅な経費節減や、適切な利用料・手数料の改定等による自己収入の確保に取り組むとともに、会計事務処理を一元化した独自システムを構築し、業務運営の効率化を図るなど、様々な工夫をしながら効率的な予算執行を推進してきたことを評価する。

(4) その他業務運営に関する重要事項

内部統制については、センターの内部統制を統括する内部統制推進本部による定期的な取組評価や内部監査の実施、「研究費不正使用防止」など研究倫理に関する研修を行いながら、取組を着実に推進するとともに、法令等順守の徹底、効率的な業務執行の確保を図っている。

また、5 類感染症に移行した新型コロナウイルス感染症への対応の見直しをはじめとした B C P の向上を図るとともに、情報セキュリティ対策については、ウィルス対策の強化や情報セキュリティ研修など、様々な取組を行った点が評価できる。引き続き、緊急時への対応力強化に向けて、サイバー攻撃に対応した B C P の策定や、最新の情報セキュリティ技術の導入など、さらなる強化に努めてもらいたい。

施設や設備の修繕・整備に関して、研究開発や技術支援の機能を維持・向上していくため、施設の老朽化対策に係る中長期的な修繕・整備の計画を策定するとともに、利用者のニーズに応じた試験研究設備の充実をお願いしたい。

このほか、センターは、新たな技術を世の中に出していく担い手であることを踏まえ、E L S I（エルシー：倫理的・法的・社会的な課題）について、職員への浸透を図る教育に取り組むなど、社会実装の観点を持って業務に当たるようお願いしたい。

Ⅱ 項目別評価

項目別評価に当たっては、法人から提出された業務実績報告書及び法人からのヒアリングを基にした検証を踏まえ、中期計画の達成に向けた法人の事業進捗状況・成果を年次計画の項目ごとに、次の5段階で評価する。

- S 計画を大幅に上回って業務が進捗しており、かつ特筆すべき業績を挙げている
- A 計画を上回って業務が進捗している
- B 計画どおりに業務が進捗している
- C 計画に対して業務の進捗がやや遅れている
- D 計画に対して業務の進捗が大幅に遅れている

令和5年度 項目別評価

大項目	中項目	小項目	評価 単位	自己 評価	委員会 評価	評価に関するコメント
I	中期目標の期間	【令和5年4月1日～令和9年3月31日(4年間)】				
II	県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項				A	
	1	県内企業の製造技術・品質向上、新技術開発への技術支援				
		(1) 技術的課題解決のための技術相談	1	A	A	企業のホームドクターとして、企業訪問数、技術相談件数等、KPIを設定したすべての項目において100%を大幅に上回って達成したことが高く評価できる。
		(2) 製品の品質安定化・性能評価、新技術開発のための機器利用、依頼試験・分析	2	A	A	来所者の満足度は99.8%と高く、継続的に良質なサービスを提供できている。 第5期中期計画における2つの重点プロジェクトを中心に、県内企業の新分野・新事業への挑戦に貢献している。
		(3) 新事業創出及び新分野進出への支援	3	A	A	社会環境がめまぐるしく変化する中、SDGsの観点など、質的な面での成果についても今後評価していく必要がある。
	2	鳥取県の経済・産業の発展に資する研究開発				
		(1) 技術シーズの創生、研究成果の技術移転による事業化促進	4	A	A	企業や関連研究機関との共同研究など、多数の研究を通じて企業現場の技術課題を解決し、新たな技術や製品の創出につながったことが高く評価できる。 知的財産権の活用では、今までにない新たな取組として、権利譲渡や契約面での工夫を行い、初めて海外での特許活用を実現するなど戦略的に取り組み、好事例として国からも注目されるなど、優れた実績を上げており、非常に高く評価できる。 今後、研究成果の一層迅速な事業化と技術移転のスピード向上が期待される。
		(2) 知的財産権の戦略的な取得と効率的な運用	5	A	A	
	3	鳥取県で活躍する産業人材の育成	6	A	A	オーダーメイド型の技術者育成は、県内企業からの評価も高く、活用企業も増加し、習得した技術により企業現場の課題解決が具体的に進められるなどの効果が見られ、企業の人材育成や課題解決に大きく貢献している。今後も、さらなる研修プログラム開発が期待される。
	4	県内外機関等との連携の推進	7	A	A	県内企業や大学・研究機関との連携が一層強化できており、競争的外部資金研究への積極的な応募と採択、新規プロジェクトの立上げが進展し、計画を上回る新たな共同研究に取り組んでおり高く評価できる。 その成果をPRすることで、県内産業への更なる波及効果も期待したい。
	5	積極的な情報の発信	8	A	A	センター設立100周年記念事業に係るPR、また各種広報媒体や企業訪問、学会や論文などの外部発表による、積極的な情報発信への努力や工夫の成果が現れていることが高く評価できる。 SNSを活用した情報発信も進んできているが、発信の頻度や方法など、更なる工夫も必要であり、一層の強化を期待したい。

大項目	中項目	小項目	評価 単位	自己 評価	委員会 評価	評価に関するコメント
Ⅲ	業務運営の改善及び効率化に関する事項				A	
	1	機動性の高い業務運営、業務の効率化・合理化	9	A	A	<p>重点プロジェクトを推進するためのチームを設置しグループを再編したことが、機動性の高い業務運営手法として高く評価できる。また、デジタル化による業務プロセスの改善など、業務効率化が進んだと判断できる。</p> <p>また、取組の積極的な外部発表により発表件数が大幅に増加し、職員の意欲向上と能力開発につながったことは高く評価できる。</p> <p>人材確保や人材育成のためにも、職員のメンタルヘルスやモチベーションの維持・向上、キャリア形成支援が一層重要である。</p>
	2	職員の意欲向上と能力開発				
Ⅳ	財務内容の改善に関する事項				A	
	1	予算の効率的運用	10	A	A	<p>エネルギー価格等が高騰する中、様々な工夫を行い、光熱水費の大幅削減を図っている。</p> <p>機器利用料収入が大幅に伸びるとともに、競争的資金の獲得も積極的に取り組むなど、大いに評価できる。稼ぐ組織として一層進化し、県外からも利用されるように工夫していくことも必要である。</p>
	2	自己収入の確保				
Ⅴ	その他業務運営に関する重要事項				B	
	1	内部統制システムの適切な運用、情報セキュリティ管理と情報公開の徹底	11	B	B	<p>内部統制やセキュリティ対策など、概ね計画どおり進んでいる。情報セキュリティ対策の種々の新たな取組は評価できるが、サイバーBCP策定など、さらなる強化が求められる。</p> <p>新たな技術を社会に出していく上で、倫理的・法律的な課題等にも対応していけるよう、職員の教育に取り組んでもらいたい。</p> <p>研究開発や技術支援の機能を維持・向上していくため、施設の老朽化対策や、利用者のニーズに応じた設備の充実についても計画的な対応が必要である。</p>
	2	施設・設備の計画的な修繕・整備				